



北海道新幹線用車両 H5系 (提供: JR北海道)

北海道新幹線用車両 H5系

H5系は東北新幹線への直通運転を考慮し、先頭形状を含む車体形状や車両構成、320km/hで走行する性能などの基本仕様は JR 東日本のE5系と同じです。基本の色構成はE5系がベースで、中央の帯の色はライラックやルピナス、ラベンダーなどを想起させる紫色[彩香(サイカ)パープル]になります。

◎定員：731名(グランクラス 18名/グリーン車 55名/普通車 658名)

◎列車名：はやぶさ(東京・仙台～新函館北斗間を直通運転する列車)

はやて(盛岡～新函館北斗間を直通運転する列車と新青森～新函館北斗間を運転する列車)

◎営業最高速度：260km/h

新幹線の時間短縮効果!!

青函連絡船の時代

約 **4** 時間 (青森～函館間)

現在(津軽海峡線)

約 **2** 時間 (新青森～函館間)

平成27年度末(北海道新幹線)

最速 **57** 分 (新青森～新函館北斗間)

平成30年春(北海道新幹線)

最速 **39** 分 (新青森～新函館北斗間)

新幹線は、青函トンネルを含む在来線との共用区間(約82km)において当面現在の在来線の特急列車と同等の140km/hで走行するが、平成30年春に高速走行(200km/h以上)する予定(1日1往復)。

開業までのスケジュール

◎平成26年12月1日から、新函館北斗・奥津軽いまべつ間でH5系の走行試験を開始。

◎平成27年4月21日から新青森・新函館北斗間でH5系の走行試験を開始。

◎平成27年8月頃/開業日発表(見込み)

◎平成27年12月頃/ダイヤ発表(見込み)

◎平成27年度末/北海道新幹線開業

平成27年度末 北海道新幹線 新青森・新函館北斗間開業



一年後に新幹線が青函トンネルを通り、津軽海峡を越えて北海道へ!!

北海道新幹線開業に向けて、今、地域が熱い。

多くの人から愛される新駅に。 「イカバーガー」で町をPR

新幹線のなかで手軽に食べられるものを開発しようと、試行錯誤を繰り返して、今別のイカを使った「イカバーガー」を考案。昨年、県が開催した「奥津軽まるっと市場」で販売したところ、「肉よりも食べやすい、イカが

新駅を楽しみ今別を味わう
名物メニュー開発に挑戦

今別町で漁師をしている夫と結婚し一緒に漁業を行っています。年々、町に若い人が少なくなるなか、有志が集まり町をPRしていくこうと、7年前に「アスクルズ」というまちおこし団体を結成しました。さらに、北海道新幹線開業に伴い、「新幹線に自分たちの夢を乗せて地域を盛り上げていこう」と、5年前に会の名称を「奥津軽ドリーム」に変更し、町の特産品を使った食の開発などに取り組んでいます。

私は三沢市出身ですが、

今別町で漁師をしている夫と結婚し一緒に漁業を行っています。年々、町に若い人が少なくなるなか、有志が集まり町をPRしていくこうと、7年前に「アスクルズ」というまちおこし団体を結成しました。さらに、北海道新幹線開業に伴い、「新幹線に自分たちの夢を乗せて地域を盛り上げていこう」と、5年前に会の名称を「奥津軽ドリーム」に変更し、町の特産品を使った食の開発などに取り組んでいます。

すごくおいしい」と、お年寄りからも好評でした。県や町も、さまざまな人や地域とつながるきっかけをつくってくれて、北海道江差町の食のイベントなどにも出展しました。最初のうちは「今別町って、どこにあるの?」と、認知度も低かったのですが、県内外の地域と交流が深まったことで町の知名度もアップし、最近ではイベント開始と同時に行列ができるほど。伝統芸能「荒馬まつり」の会場で販売したり、「のしイカ体験」を企画したり、地域の魅力をいろんな形で発信しています。

今後は販路拡大とともに、イカ以外の特産品を活用した新商品開発にも挑戦し、「奥津軽いまべつ駅」が多くのの人から愛されるよう、地元民と観光客の交流を深められる仕掛け作りに取り組んでいきたいです。



【インタビュー】
奥津軽ドリーム
小鹿 輝恵さん